

2021年 6月 9日

岐阜県知事 古田 肇 様

関西電力高浜原子力発電所1・2号機及び美浜原子力発電所3号機の 運転再開に関する申し入れ書

さよなら原発・ぎふ

代表 伊藤 久司

老朽原発40年廃炉訴訟市民の会

共同代表 草地 妙子 茶畑 和也

本年4月28日、運転開始から40年を超える関西電力高浜原子力発電所1・2号機及び美浜原子力発電所3号機の運転再開に関し、立地する福井県の杉本達治知事が同意を表明しました。

岐阜県は、美浜原子力発電所から県境まで約28kmの位置にあることに加え、若狭湾方向から風が吹く日が多いことから、もし美浜原子力発電所で大事故が起これば、甚大な放射能汚染に曝される地域です。

2012年9月に岐阜県が実施・公表した「放射性物質拡散シミュレーション」(敦賀原発の位置で東京電力福島第一原子力発電所事故と同様の放射性物質の放出が起きたと仮定)は、とても良い取り組みだったと思います。その結果によれば、気象条件などが最も悪いケースでは、大垣市の中心部で年間110mSv、岐阜市の大部分で20mSv~100mSvという汚染に曝されるという計算が示されています。東京電力福島第一原発から約30キロ離れた福島県浪江町赤宇木地区は、事故から1か月以上経ってから計画的避難区域に指定されましたが、弘前大学の研究によれば、一部住民は避難するまでの2か月間に約50ミリシーベルト被曝したことになる試算しています(※1)。

しかし、このような深刻なシミュレーション結果でありながら、残念ながら岐阜県民に周知されているとはいえません。住民避難の具体的な計画もありません。何の説明も備えもないまま、岐阜県民は老朽原発再稼働というリスクを負わされようとしています。

どの原発も安全ではありませんが、とりわけ老朽原発は事故のリスクが格段に高まります。福島第一原発事故以降、「原発の事故は起こり得るもの」として対策をとることが求められています。岐阜県といたしましても、具体的なリスクが想定される以上、県民の安心・安全のための対策や説明がなされないまま再稼働を黙認するようなことがあってはなりません。

以上の理由から、下記の事項を申し入れます。

1. 岐阜県として、説明会を開催してください。

岐阜県では、これまでに上記の原発再稼働に関する説明会が行われておらず、岐阜県民にはほとんど知らされていません。是非、岐阜県として、公正・公平な立場での説明会を開催して下さい。

2. 具体的な避難計画が示され県民の納得が得られないうちは、老朽原発再稼働を容認しないことを表明してください。

以上、老朽原発の危険性等は、添付の「2021年4月26日付福井県知事あて緊急要請書」を参照願います。

※1 朝日新聞 2011年9月8日8時5分
<http://www.asahi.com/special/10005/TKY201109070695.html>